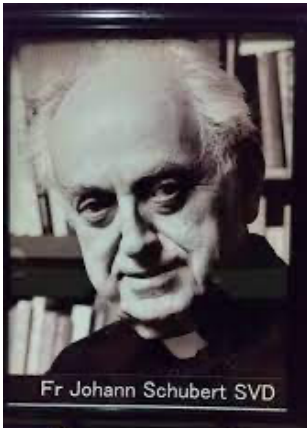


Recommendation for the NAST Tour from Father Johannes Schubert



1960年代に、私が南山大学のフランス語教師だったとき、日本人の生徒には日本での語学学習も必要だが、外国へ行き、その文化や話すことに触れさせることのほうが大切だと思っていました。

1968年の大学から得られた許可で、私は70人の生徒と70日間のツアーを構成し、その70人を英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語という4つの言語のグループに分けました。生徒たちは1ヶ月間、キリスト教の家庭で滞在しながら、集中語学クラスに通わせました。その後の40日間はフランス、オランダ、ベルギー、ドイツ、オーストリア、スイス、イタ

リアの文化を巡る観光を楽しんだのです。そしてその後、帰国した学生らが、大学の本部にとっても熱心に報告をしてくれたので、私は2001年の自身の退職までNAICE(南山国際文化協会)の引率をしてとてもよかったと思いました。

ヨーロッパツアーは毎夏、120人ももの生徒が参加するほどの大きなツアーになりましたが、次第に45日間の短いものになっていきました。

加えて1971年～2001年の毎春、40人から45人の3つのグループに別れ、リバーサイド(カリフォルニア州)、デンバー(コロラド州)、バンクーバー(カナダ)に行き、1ヶ月間ホームステイをしながら、彼らは語学クラスに通っていました。そして残りの2週間はスキー体験や、サンフランシスコ、ロサンゼルス(ディズニールランド、ユニバーサルスタジオ含む)の観光をし、ときどきサンディエゴのシーワールドやラスベガス、グランドキャニオン、そしてハワイにも観光で訪れました。NAICEの45日間の研修ツアーはどこの旅行会社さんの25日間のツアーより値段を押さえる事が出来ました。

研修ツアーの引率する人はいつも南山大学と短期大学の先生たちをお願いしました。その一人がノテスタインラッセルでした(ニックネーム"Rusty")。ラスティは自分で作った北アメリカ研修ツアー(NAST)プログラムで私が作ったNAICEツアーと同じアイデアと考え方で今でも継続して海外に学生たちを送り続けています。

私は、このNASTツアーがホームステイや大規模な観光を含んでいるのにもかかわらず低価格で学生に提供し続けていることに、とても高い価値があるホームステイツアーだと強く感じています。私の友人であるRustyは35年間の私の南山の生徒や他の大学の生徒らに価値のある財産をもたらしてくれたことに、喜びと満足を感じています。

ヨハネス・シューベルト神父カトリック半田教会主任司祭

1964年～2002年 南山大学仏文学科教員

1979年～1987年 南山短期大学長、中・高校長

2002年～2008年 多治見修道院院長

2008年 南山教会協力司祭、長浦教会主